

第十八回 忠順大賞

(令和五年度)

入賞作品

・応募総数 一五〇四首

・久米翠雲先生 選評

小学生の部

豊田市長賞

堤小六年 山崎 祐聖

いろいろなサイズのくつが

せいぞろい

楽しい年が始まる予感

※おじ・おば・いとこたちが帰省して大に
ぎわい。それをいろいろなサイズのくつ
と表現したのが上手い。

豊田市議会議長賞

堤小五年 市川 晴登

まだかなあ もちをにらんだ

父とぼく

こげ目がまてずあみからはがす

※父と子で、餅を焼いている。早く食べ
たい、網についてしまうかも。二句目で
雰囲気伝わり面白い。

豊田市教育委員会賞

駒場小四年 中野 日向

はつもうでじしんが起きてこわくなり

母に近寄り甘え上手に

※下の句が大変楽しい。非常事態だった
が、とっさの行動で母にしがみついて甘
えられて良かったね。

中日新聞社賞

堤小五年 大久保 奏子

耐じょうびたき鶏庭でカッカと鳴く声は

遠くへ響く冬のお知らせ

※火打石を打つような鳴き声。遠く
国大陸から越冬のため日本に渡る。
冬が来るぞと皆に知らせる。上手い。

会長賞 金賞

堤小三年 岩田 紗菜

クリスマス サンタクロースに

ケーキのおれい

朝見てみたらかん食してた

※サンタさんにお礼のケーキなんて優し
いね。サンタさんもビックリしたでしょ
う。完食、良かったね。

会長賞 銀賞

堤小四年 子玉 櫻子

気づいてね 君はだれかの宝もの

君は一人じゃないからね

※人はだれもが素晴らしいものを持って
いる。それは誰かに伝わり、宝ものと
なる。すごいね！素晴らしい考え。

会長賞 銅賞

堤小一年 はまだ みさき

うれしいなもうすぐわたしおねえちゃん

おせわはまかせて！まってるからね

※お母さんから、もうすぐお姉さん
なるよ、と言われてびっくりしたけど、
うれしいな。第五句が良いですね。

優秀賞 (三名)

堤小三年 佐々木 桃子

としこをはじめてすすともだちと

さんにいちぜろ またよろしくね

※おおみそかに神殿で巫女舞をした。
その時にお友達と除夜の鐘を聞き、
年越しをした。秒読みが楽しい。

駒場小六年 清水 勇翔

おおみそかに一度のかねならし

年をこすときみんなでジャンプ

※家族全員かな。友だちもいたでしょ
うね。鐘を鳴らして、新しい年へジャン
プして、一歩踏み出した。心躍る、
いいね。

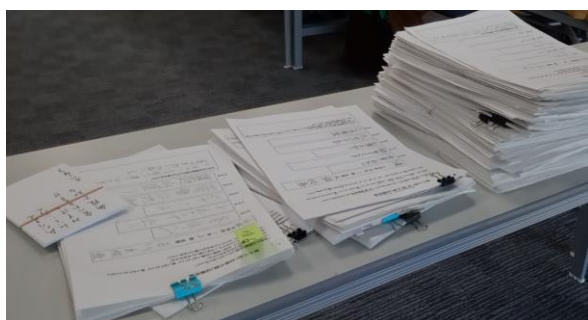
堤小六年 清原 珠友

お姉さん たまめにケンカ口きかず

知らないうちいつもの会話

※下の句がいいですね。お姉さんとは、
本当は仲良しなんだね。ケンカの前よ
り仲良くなっているのでしょうかね。

応募作品 (1,504 首)



中学・一般の部

豊田市市長賞

前林中一年 大島 さちほ

友達と遊びに行く度減る貯金

それでも増えてく思い出貯金

※お友達との遊びには、自分の貯金を

使う。しかし、友達との思い出は、何

物にも代えがたい。下の句が素晴らし

い。

豊田市議会議長賞

高岡本町 神尾 やす子

「やすやん」と今も呼ばれる

いと「より

ふるさと思うなつかしき名よ

※故郷の幼馴染は当時の呼び名で話し

合える。そんな懐かしい名前呼び合

えるのが嬉しい故郷。

豊田市教育委員会賞

前林中二年 宮崎 結人

友達と一緒に歩くの楽しいな

自転車よりも絆深まる

※いつもは自転車で通っているが、今日は

引いて下校し、友と色々話げできた。

下の句で思いが全て出ている。

中日新聞社賞

前林中三年 作本 恵梨華

いつだって家に帰ればホットする

私の心のチャージ場所

※学校生活には、いいことばかりでもな

い。嫌なことも出てくる。家に帰ると

忘れ元気になる。下の句が新鮮。

会長賞 金賞

前林中三年 石川 結萌

「もう消すよ」弟電気に手をのばす

もう届くのかと成長を感じる

※毎日一緒に生活していると、気がつか

ない。ふつと弟の成長を感じた。上の

句の着眼がいい。素直な表現。

会長賞 銀賞

前林中二年 宮城 凜

「寒いね」と悴んだ手を握り合う

友の笑顔は冬の太陽

※学校の廊下で出会った親友。寒いね。

うん寒い！悴んだ手を握り合った。温

かい、笑いあう。下の句でまとまった。

会長賞 銅賞

前林中二年 馬田 結羽

空を飛ぶお菓子のブーケ手をのばす

ひまわり色の二人の笑顔

※幸せのおすそ分けの意味で花嫁が投

げる。お菓子のブーケ。花嫁・花婿が

向日葵の様に、幸せに輝いていた。

優秀賞（三名）

前林中三年 田中 エベリン

弟が私の部屋でくつろいで

怒りたいけど怒れないのだ

※弟は自分の勉強を終え(?)私の部屋

でくつろぐ。怒りたいが怒れない。気

分良くしているから。下の句がいいね。

前林中二年 甲村 勇貴

コロナ禍で慣れてしまったマスク姿

勇気を出して外してみよう

※コロナ禍で日常のマスク。くぐもった声

と目だけの会話。取つてもいいのに、取

れないマスク。互いの顔見たい。

前林中一年 佐藤 杏紗

仲間たちみんな泣いてよるこんだ

夏の大会ブザービーター

※これはドラマですね。最後まで、諦め

ない。それが逆転勝利につながった。お

見事。喜びと感動が伝わる。

※無審査

前林町 甲村 サカエ

善ない皆独り居の和むるは

折々逢ふて脳トシをせむ

堤町 石川 小智子

孫が来てゲームしながらユーチューブ

テレビ見せてよダメのひと言

第十八回 忠順大賞「一五〇四首の作品の応募があり、久米翠雲先生による最終審査で二十名の入選者が決定いたしました。

久米先生から、今年は非常に素晴らしい作品が多かったです。楽しく読ませていただきましたとの言葉とともに、入選作品に選評も添えていただきました。

今年も 忠順大賞「募集に伴って開催しました 短歌づくり教室」に、一般の方と共に小学生の参加者もあり、入賞者もおられます。事務局一同とても嬉しく励みに思っております。本当におめでとうございました。

お忙しい中、指導・協力していただいています小・中学校の先生方、地域内外から応募していただいた大勢のかたに感謝致します。(事務局 川村)